



保育の記録と研修の支援ツール HoiQ

東京大学大学院教育学研究科附属

発達保育実践政策学センター

HoiQ開発チーム

HoiQ (ホイキュー) とは？



- Cedepで開発中の保育実践の記録・研修の支援ツール

- 保育の問いを見つけ、保育を振り返る
- 「子どもにとって」という視点から、保育を考える・問うこと
- 保育者間で、問いや思い、考えなどを共有すること
- 学びの履歴を記録・共有し、園の保育を園全体で考えること

「保育の質」がより豊かになるために

…子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに生きていくことを支える環境や経験のすべて（OECD、2015）

子どもの育ち

構造の質

- ・ 物的・人的環境の全体的な構造（面積、人数比、クラスサイズ、労働環境等）

プロセスの質

- ・ 保育者と子ども、子ども同士、保育者同士のかかわり（安心感や教育的意図を含む関係性）

日々の環境構成・かかわり

実施運営の質

- ・ 現場のニーズへの対応、効果的なチーム形成のための運営（計画、記録、振り返り等）

園で話し合う



保育や子どもの姿を語り合う時間が十分に取れないなあ

保育や子どもの姿を語り合うことを通して、学びを深めたいけれど、どうしたらよいかわからない…



保育の理念はあるけど、具体的な保育実践と結びついていないのが課題だな

保育に関する話し合いは、それぞれが言いたいことを言って終わってしまって…



一人で考える

どんな視点から振り返ったらよいのだろう？



ファシリテーター・助言者の立場から

園の先生たちが感じていることや悩んでいることを十分に汲み取れていなかったかも…

保育を振り返る？ 語り合う？

- ⑩ どんな視点から考えたらよいかわからない
- ⑩ いろいろな視点から考えてみたい（視野を広げたい）



HoiQのコンセプト（大切にしていること）

- 保育の問いを見つけ、保育を振り返る

HoiQ = 保育 + 探究
Q = 問いを見つける・焦点化する



- 「子どもにとって」という視点から、保育を考える・問うこと
- 保育者間で、問いや思い、考えなどを共有すること
- 学びの履歴を記録・共有し、園の保育を園全体で考えること

HoiQを用いた研修の方法

1. HoiQの項目の選択（視点を持つ）＋事例の共有

話し合う視点を持って事例を読む（保育を見る）

話し合うための視点・問いを持つ

- ① みんなで考えたいこと・課題を踏まえHoiQアプリで「テーマ」を選ぶ
- ② 選んだテーマにより表示される「項目」から、話し合うための「項目」を絞る



事例を共有する・保育を見る

例) 文字記録・写真・映像
実際の保育を見る



事例を読んで（保育を見て）話し合う視点を持つ



2. 事例・保育についての話し合い

- ① 気づいたことを自由に話し合う
- ② 選んだ「項目」を視点として話し合う

共通の「視点」をもつためのテーマ・項目の例

I. 事例を考える際のテーマ

子どもが夢中になって遊ぶことができるようにしたい

II. 上のテーマを掘り下げる際の項目を決める

子どもが自ら遊びを選び、じっくりと満足して遊べるようなものや空間、時間がある。

子どもが繰り返し遊ぶことや、試したり工夫したりすることができるようにしている。
また、子どもの姿をふまえて環境の再構成をしている。

子どもの興味・関心や心の動きにまなざしを向け、耳を傾けて援助している。

※ 項目は、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」と、国内・海外の保育尺度（日本版SICS・ECERS・CLASSなど）を参考に、子どもの視点・「子どもにとって」の視点で考えられるよう作成

本事業における使い方

- 訪問園の先生方には、訪問するアドバイザーが事前ヒヤリングを行います。
- 園で特に大切にしたいこと、園の保育の課題などを踏まえ、HoiQのリストから3つ程度項目を選び、お伝えいただきます。
- 当日は、選んだ項目を視点として、アドバイザーが保育を参観します。参観後、視点に沿って子どもについて語りあいます。

項目例

テーマ「子どもの安心感を大切に保育をしたい」	
あ	子どもたちが心地よさを感じたり、くつろいだりしている。
い	一日の保育は、子ども一人ひとりの興味や関心、状況をふまえて柔軟なものである。
う	保育者が子ども一人ひとりに温かなまなざしを向け、子どもの声に耳を傾けている。
え	遊びや活動で、子ども一人ひとりが、思いやペースを尊重されている。
お	子どもの不安定な感情の表出については、適度に見守ったり、必要に応じて子どもの思いや考えを受け止めたり、言語化したりするなどしてかかわっている。
か	子どもの「やろう」という気持ちや、「やりたくない」「できない」という気持ちを受け止め、その思いを汲んで、状況に応じたかかわりをしている。
き	子ども同士が安心してかかわり合い、ともに過ごしている。
く	様々な子どもの個性や特性、背景に配慮した環境がある。
け	子どもが自ら遊びを選び、じっくりと満足して遊んでいる。

テーマ「子どもが夢中になって遊ぶことができるようにしたい」

こ	【3歳未満児】子どもにとって、遊びの見通しを持ちやすく、安定した空間やものの構成となっている。
さ	【3歳以上児】子どもにとって、遊びや活動の見通しを持ちやすく、必要なものを自分で取ることができる空間やものの構成となっている。
し	【0歳児、1歳以上3歳未満】子どもが他の子どもの存在を感じながら穏やかに遊べるような環境（物の種類や量、配置、保育者の一度裏、動線など）がある。
す	【3歳児以上】子どもたちが、一緒に考えたり工夫したり協力したりするような遊びや活動の時間・空間が十分に設けられている。
せ	様々な子どもの個性や特性、背景に配慮した環境がある。
そ	子どもが自ら遊びを選び、じっくりと満足して遊べるようなものや空間、時間がある。
た	子どもの興味や関心が触発され、好奇心をもって自ら関わりたくなるようなもの（量と種類）・空間がある。
ち	【3歳以上児】子どもが自分で遊びや遊びの場をつくれるようなものや場がある。
つ	片付けのとき、子どもが遊びを継続したいときには遊びの一部を取っておけるように配慮している。
て	子どもが繰り返し遊んだり、試したり工夫したりすることができる環境がある。
と	子どもの興味・関心や心の動きにまなざしを向け、耳を傾けて援助している。
な	子どもが、自分の思いやペースで興味・関心を深めている。
に	【3歳以上児】子どもが、遊びの中で、他の子どもの気づきや発見、考えにふれ、遊びをよりおもしろくする視点を取り入れている。

より詳しい説明は右の動画で行っています。



(約8分)

<https://youtu.be/9uaMVGvKB3c>

